

透析の穿刺ミスを極力減らすため、エコーガイド下穿刺を開始致しました。

エコーガイド下穿刺とは、超音波診断装置(エコー)を用いて、血管内の様子を連続的にモニタリングしながらバスキュラーアクセスの穿刺を行うことです。特に通常の穿刺が困難な症例に有用で、盲目的な穿刺と異なり、血管と穿刺針との位置関係が正確に把握できることで、穿刺ミスを減らすことができます。これは、患者様と医療者側双方にメリットがあり、穿刺トラブルをなくすことで透析治療の質の向上にもつながります。

Venue 40 Vascular Access

操作性と高画質を両立した
コンパクト超音波診断装置



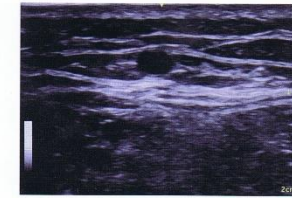
PORTABILITY

血管穿刺の側で安全穿刺をサポートします

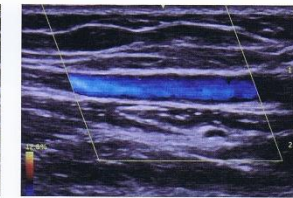
- 軽量小型で、1時間のバッテリー駆動により、穿刺に必要な場面のどこにでも持ち込むことができ、安全穿刺をサポートします。
- 17秒の立ち上がり時間は、スピーディな処置をサポートします。
- 10.4インチのモニタ画面は、穿刺目的部位の確認を容易にします。

EASY IMAGE QUALITY

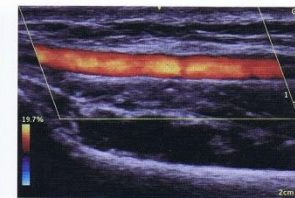
複雑な設定無しに、すぐに穿刺に必要な最適で高解像度な画像と情報を提供し、どの穿刺部位においても安全な穿刺をサポートします。



小伏在静脈



尺側皮静脈



後骨動脈

エコーガイド下穿刺の様子

(写真左) 当院でエコーガイド下穿刺を行っている様子です。当院でも平成27年6月よりエコーをガイド下穿刺を導入しました。学会をはじめ、すでにエコーガイド下穿刺を導入している施設での研修にも積極的に参加し、穿刺技術の向上に努めています。また、血管トラブルに対しても素早く対応し、より安全で安心な透析医療を目指しています。

(写真右) 穿刺中に実際に表示される画面になります。赤色の枠の中に見えるのが血管、黄色い枠の中に見えるのが透析用留置針の先端部分です。桃色の枠の中は操作パネルになっており、これら进行操作することで画面全体の色調や、モニタリングする際の深さを変更することができます。また、映し出した映像を動画・画像ファイルとして保存し、その時のバスキュラーアクセスの状態を後で確認する事もできます。

